



写真1 1年地域学入門（水生昆虫調査）



写真2 2年地域探求I・授業風景（教育教材ゲームづくり）



写真3 3年地域探求II（小学生への八幡山彫刻公園ガイド）

また類型名に沿った学習内容が求められ、「地域」をテーマに学習を進めることになった。しかし、保護者の関心は、授業内容よりも出口の確保。保護者の理解が得なければ募集に反映されない。受験に直接関係のない「地域」を課題とする探究学習。どうすればこの類型の学習の意義を理解してもらえるのか？

そこで、大学教授の助言もあり、今までの「知識伝達型の授業」から「探求心を育てる授業」に転換を図り、地域を教材として学ぶ力を育て、進路実績に繋げることを目指した。求めたのは受験対応の学力でなく、「自己の夢への探求心の育成」であった。

また学校が「地域づくりの拠点」となり、その結果「人づくりの拠点」になることによって、学校が存続していくことにつながる

と考えている。そのためには、各々が地域の一人の人間として責任を持つということが重要で、そういう地域づくりをするなかで人は育っていく。これは高校生だけではなく、教職員はもちろんのこと、地域の方々も同じであろう。新任教員が村岡高校から転出する際に次のように語ったのが印象に残っている。

過疎地域の県立高校の現場から

兵庫県美方郡香美町は過疎化・少子高齢化が急速に進行している地域である。その中で、兵庫県立村岡高校は「地域に学び、地域と協働する学校」を展開している。

村岡高校は1学年2クラスの小規模校であり、20数年前から学級減が危惧されてきたが、地域・父母・教職員が一体となって学級減阻止の取組みが行われ、1999年には住民過半数の請願署名を集め、議会で採択され、学級減をくい止めた。

2011年度に県立高校の特色化がうたわれ、村岡高校も「地域創造類型」を創設し、2014年度には地域アウトドアスポーツ類型に改編し、「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」で全国募集も開始した。地域を教材として学ぶ力を育て、進路実績にも繋げる。そのために、今までの「知識伝達型の授業」から「探究心を育む授業」として学校設定教科『地域探求』（写真1・3）を設置し、さらに「総合的な学習（探究）の時間」（写真4・6）を「村高発☆地域元気化プロジェクト」として、全校生による地域協働活動を展開している。

村岡高校の取組みが始まった当時、県下各校の特色化がうたわれ、村岡高校も例外ではなく、その流れに乗らざるを得なかった。少子化が進み、定員割れを起こしている村岡高校にとって、学校の存続を掛けた大きな決断を迫られていた。また、近隣の他校への流出をいかにして止めるか。村岡高校の特性を活かした授業とは何か？ 他県の学校の視察、研究、検討を重ね「地域創造類型」を創設することが決まった。

現地報告

兵庫県香美町

高校と地域を育てる 学びを通じた 関係人口づくり



鳥取大学地域学部
教授

つつい かずのぶ
筒井 一伸



兵庫県立村岡高校
教諭

いまい のりお
今井 典夫



兵庫県地図

そして、将来にわたって自ら主体的に地域のポテンシャルを見出し、地域活性化に協働・参画する資質・能力として具現化されるものであり、生徒が希望する多様な進路にも対応するものである。すなわち、知識偏重の競争型教育から脱却した、生活の中でたくましく生きて働く、主体性や生きる意欲を伴った学力であり、地域づくりの過程を通して、地域と協働し、地域の魅力を活かして、地域を育て、自らも育つ学力といえる。私たちは、そろそろ「学力の捉え直し」をしていく必要があるのではないかと感じている。

村岡高校は地域創造類型設置当初より「郷土について知り、知的探求の方法を学ぶ」を主眼として取組みをすすめてきた。地域に積極的に向き、地域の方々と協働して「地域づくり」をすすめる中で、生徒は「生きる力」を獲得し、大きな成長を遂げている。

また、生徒にとっての「地域づくり」(地域探求・地域協働活動)は最終到達点ではなく、「未来社会を創造していく」ための通過点で

地域の方々の協力なしではなしえない。そういう意味では地域との関係は必要条件となる。そこで私(今井)なりに振り返って考えると、地域とのいい関係づくりとして次の5つのポイントが挙げられる。

①「学校づくりは地域づくりである」という思いを地域と共有する

②地域の「ステキな大人(若者)



写真4 総合的な探究の時間(集落調査班:聞き取り調査)

と高校生を結びつける

③高校生と地域が「問い」を立てる学びにつながるような教育実践をすすめる

④学校と地域が定期的な「情報交換の場」を設け、地域の課題と学校の課題を明らかにしていく

⑤学校存続等の危機感を全教職員で共有し、地域へ「一歩踏み出す勇気」をつくり出す



写真5 総合的な探究の時間(村高除雪隊)

しかしながら、最終的には生徒・教職員・地域の方々が「楽しい」「前向き」と感じるような取組みをすすめていくことが何より大切である。

生徒にとっての
「地域を育てる学力」

2020年度からは文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革事業」の研究指定校とな



写真6 総合的な探究の時間(地域福祉班:放課後こども教室スタッフ)

り、生徒が地域での学びを通して「地域を育てる学力」を身につけた、地域を愛する未来型人材の育成を目指して取組みをすすめた。

「地域を育てる学力」とは、地域住民とともに地域課題を実践的に解決するプロセス(地域づくりの過程)を通して、地域課題の解決を考案し実践することで、よりよい未来の創出に資する活動を展開することのできる学力である。

「地域を捨てる学力」と「地域を育てる学力」

兵庫県但馬地方の小学校教員であった東井義雄(1912~1991)は、昭和30年代に「村を捨てる学力」、「村を育てる学力」(写真7)を論じた。

当時、農村の子どもに学問は不要だという親や村人の意識がある一方で、逆に子どもたちの多くは村を出て行く運命なのだから、進学用、就職用の学力を身につけさせるべきだ、という意見も存在していた。

東井はこうした見解を退け、学校での教育の目的を「村を育てる学力」という言葉で表現した。進学・就職用の「村を捨てる学力」では「村を育てる学力」にはなり得ないが、村を愛し育てられるような主体性のある「村を育てる学力」であれば、同時に進学・就職にも通用すると東井は主張した。

言い換えると「村を育てる学力」とは、地域生活の中で生きて働く、生活化された科学知(科学的思考)と、科学化された生活知(生活的思考)からなるといえる。

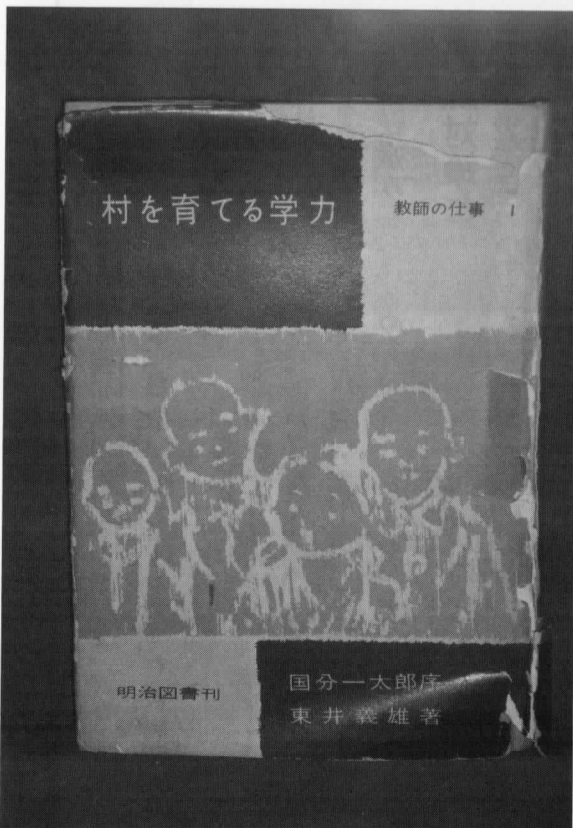


写真7 東井義雄著『村を育てる学力——教師の仕事』明治図書出版、1957年(東井義雄記念館所蔵)

2023.11 contents

グラビア

- 01 現地報告1 宮崎県椎葉村
- 02 現地報告2 徳島県神山町
- 03 現地報告3 京都府綾部市
- 04 現地報告4 兵庫県香美町



巻頭言

06 人生の残り10万時間を、
地方創生へ！／篠谷浩介

©青木優佳氏

特集

- 08 「にぎやかな過疎」の形成
人が人を呼ぶ地域づくり——その本質と政策
／小田切徳美
- 12 2050年、持続可能な地方づくりのために
AIが示す「地方分散型社会」
／広井良典
- 16 女性の県外流出を減らすには地方圏の変革が必要
／宮本みち子

現地報告

- 20 【宮崎県椎葉村】地域の魅力＝人の繋がり
期間限定の活動を原動力に
／天野朋美
- 24 【徳島県神山町】「意図した偶発性」がもたらした
高専開校の奇跡
／篠原 匡
- 28 【京都府綾部市】新しい田舎生活のすすめ
移住立国あやべから学べるヒント
／蒲田正樹
- 32 【兵庫県香美町】高校と地域を育てる
学びを通した関係人口づくり
／筒井一伸、今井典夫

【今月の表紙】 秋深まる青い池



北海道美瑛町
表紙撮影／大塚昭彦

美瑛町は北海道のほぼ中央部に位置しています。「丘のまち」といわれるとおり、なだらかな丘陵と自然環境の豊かな町で四季を通して絵になる所です。人口9,471人、面積676.78km²で主要産業は農業です。観光も昨年の来訪者は181万人に達します。

写真は白金に在る「青い池」です。池の水が青い理由は、白金温泉からアルミニウムを含んだ地下水が流れ出て美瑛川の水と混ざり、目に見えないコロイド状の微粒子が生成され、それが青く光るため。当日は池の周りにある白樺林が見事に黄葉、池のブルーとの競演を上空より表現してみました。

特集 「ひと」の集まる 地域づくり

連載

- 38 議会人の声（第7回）
これからの議会人に求められるのは議員自らの
発信力と聞く力／青田知史
- 40 議会運営講座（第8回）／川本達志
一般質問パワーアップ・ブック
執行部を動かすための質問とは②
「質問の構造を考えて準備しよう」
- 46 議員研修講座（第26回）／長谷文子
女性議員はどうすれば増えるのか
「女性が元気なまち、人口増加が続く花のまちで
初の女性議長誕生」
- 50 教養講座（第16講）／河村和徳
地方議員のための選挙トリア
「大規模自然災害と選挙」
- 54 議会広報紙を見やすく、わかりやすく
（第7回）議会を身近にするアクションと広報
／吉村 潔
- 58 議長会ニュース／全国市議会議長会
全国町村議会議長会
- 62 変える議会、変わる議会
——改革はどこまで進んだか（第30回）
愛知県幸田町／人羅 格
- 64 随想 地方議会について考えたこと（第32回）
今、あらためて議会の「多様性」を考える
／山岸絵美理

高校と地域を育てる 学びを通した関係人口づくり



4 か み ち ょう 兵庫県香美町

過疎化・少子高齢化が急速に進行している香美町の県立村岡高校では、20数年前から学級減が危惧されてきた。そこで2011年度に地域協働活動を通して学ぶ力を育て、進学実績にも繋げる試みを開始。村岡高校が唱える「地域を育てる学力」とは何か、そしてそれが過疎地域の「地域づくり」にどうかかわっていくのか。学びを通しての関係人口づくりのプロセスを、今井典夫教諭と鳥取大学の筒井一伸教授のおふたりの共同執筆でご寄稿いただく。詳細は本文P32～36にて



写真上：
地域創造系2年生による「地
域探求1」授業風景

写真中左：
総合的な探究の時間（環境
B班：森の健康診断）

写真左：
雪景色の村岡高校校舎

写真提供／今井典夫氏（村岡
高校教諭）